

密閉された空間での使用厳禁

一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。

⚠️ 安全のために必ずお守りください



密閉された空間での使用厳禁

換気が十分行われない場所で使用し続けると、酸素濃度の低下により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。新鮮な空気が常に供給できるように、空気取入口や排気口を必ず設けてください。



換気必要

使用中は1時間に1～2回必ず換気してください。換気せずに使用し続けると、酸素濃度の低下により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。



一酸化炭素中毒の症状

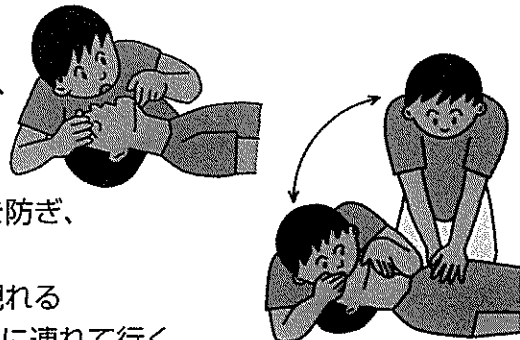
初期症状は、頭痛、吐き気、めまい、倦怠感などですが、呼吸数や脈拍数の増加が起こり、意識があっても身体が自由に動かなくなります。さらに進むと意識がなくなり呼吸が停止し、死に至る場合もあります。

救出時の注意

- 1) 救出者が共倒れしないよう、濡れタオルで口・鼻を覆い、息を止めて部屋の換気をする。
- 2) ヒーターをとめる
- 3) 連れ出すときには、引きずるようにする。意識があっても絶対に歩かせない。

応急処置

- 1) 安全な場所へ運び、呼吸を確認し、なければ人工呼吸をする。ゆっくり2回、すばやく3回のペースで息をふきこみ、脈がない場合は心臓マッサージをする。
- 2) 意識が戻れば毛布でくるみ体温の低下を防ぎ、安静に寝かして救急車を待つ。
- 3) 数日、あるいは数週間してから症状が現れる場合があるので、軽症でも必ず医療機関に連れて行く。



安全のための十か条

▲ 安全にご使用いただくために次のことを必ずお守りください。



警告 この機械は「業務用」ヒータです。家庭用として使わないでください。火力が強いので、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

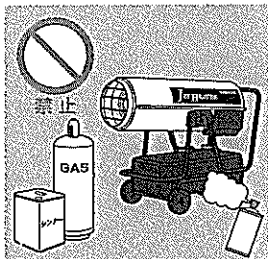
1. 換気必要 密閉された空間での使用厳禁



使用中は必ず換気してください。空気取入口や排気口を必ず設けてください。酸素が不足すると一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。

必ず換気！

2. 可燃性ガス及び引火性液体厳禁



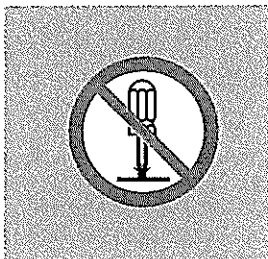
シンナー、ガソリン、LPG などがあるところでは、ヒータを絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因となります。

3. ガソリン、変質灯油、不純灯油使用厳禁



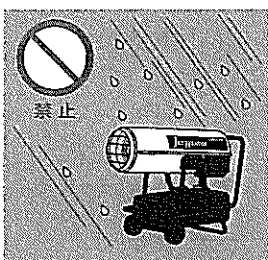
使ってはいけない灯油
 ・昨シーズンより持ち越したもの
 ・日光が当たり温度の高い場所で保管したもの
 ・ガソリン、シンナー、機械油などが混入したもの
 ・水やゴミが混入したもの
 異常燃焼や火災の原因となります。

4. 改造厳禁

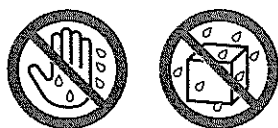


改造は絶対にしないでください。火災・やけど・一酸化炭素中毒など、重大事故の原因となります。

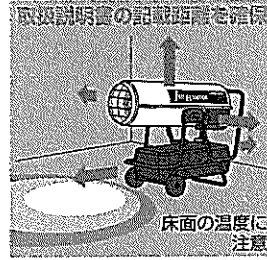
5. 水のかかるところ、湿気の多いところでの使用禁止



雨水、雪のかかるところや湿気の多いところでは使用しないでください。濡れた手で操作しないでください。故障や感電の原因になります。

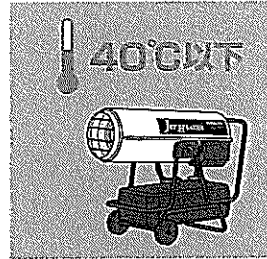


6. 周囲の可燃物に注意



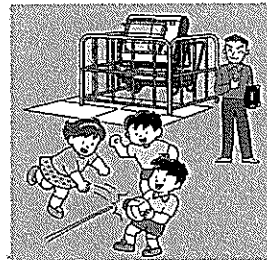
ヒータと周囲の可燃物との距離は、取扱説明書に記載の距離を確保してください。床面が、こげたり変形しないように注意してください。火災の原因となります。

7. 周囲温度に注意 (-20℃から 40℃の範囲で使用してください)



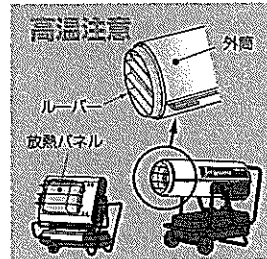
40℃を超える温度で使用すると、ヒータが過熱され火災の原因となります。

8. 通路での使用禁止、子供のいる場所での使用に注意



階段、避難口及び部屋の出入口などでは使用しないでください。やけどや怪我の原因になります。子供のいる場所では、ガードを設置してください。事故防止のため安全管理者をおいてください。

9. やけどに注意



燃焼中や消火直後はルーバ、放熱パネル、外筒などが高温となりますので手をふれないでください。やけどの恐れがあります。

10. 動物飼育施設での使用に注意



次の内容が想定されます。
 ・敷きワラ等の可燃物による火災。
 ・換気不十分による不完全燃焼で家畜の死亡。
 ・安全装置の作動による自動消火で家畜の凍死。
 ・家畜のやけどや脱水症状

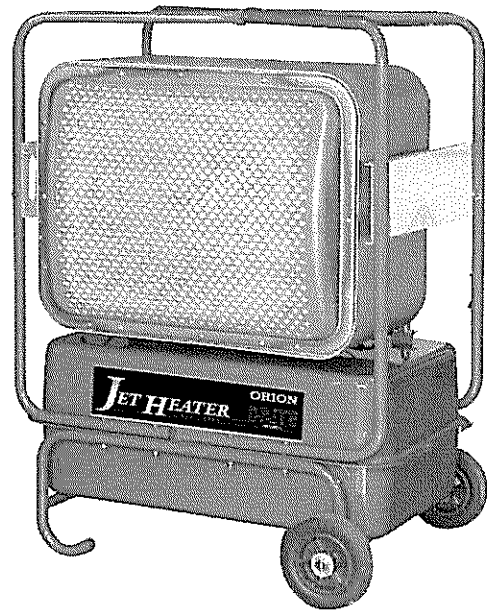
ここには取扱説明書の警告事項の中から特に重要なものを、厳選して掲載してあります。ヒータをご使用いただく前に、必ず取扱説明書をお読みください。

取扱説明書

業務用油だき可搬形ヒーター・放射式直火形

オリオンジェットヒーター **BRITE**

HR330E-L



- この機械は「業務用」ヒーターです。家庭用として使わないでください。
- 火力が強いため、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- この取扱説明書をよく読んでヒーターを正しくお使いください。
- 取扱説明書は必ず保管しておいてください。



ガソリン厳禁



巻末が保証書となっています。
大切に保管してください。

03102428010

はじめにお読みください

このたびは、オリオン製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
より安全に、また良好な状態でお使いいただくために、この「取扱説明書」をお読みになり、正しく
お使いください。

安全上のご注意

ご使用前に「安全のため必ずお守りください」をよくお読みの上、正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を
未然に防止するためのものです。

注意事項は、 危険  警告  注意に区分して表示してあります。



危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う危険、
または火災の危険が差し迫って生じることが想定されるもの




警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う可能性、
または火災の可能性が想定されるもの











注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や、
物的損害の発生が想定されるもの

また、 注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- ・取扱説明書をお読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
- ・お使いになっている製品を譲渡されたり、貸与されるときには、新しく所有者となられる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書を製品本体の目立つところに添付してください。

■図記号について

	 記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、警告・注意以外の重要な事項を示します。

も く じ





⚠安全のため必ずお守りください	3
本体警告ラベル貼付位置	9
各部のなまえ	10
使用前の準備と確認	11
使い方	12
点検・手入れのしかた	16
定期点検	19
異常のとき	20
保管のしかた	21
消耗部品	22
廃棄について	22
オプション部品	22
アフターサービス	24
仕様	25

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（危険）

この章に記載する事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための安全上の重要事項です。この製品を使用する前にお読みになり、必ずお守りください。

⚠ 危険

	<p>ガソリン厳禁 灯油（JIS1 号）を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因となります。</p>
	<p>可燃性ガス及び引火性液体厳禁 可燃性ガスを発生するもの（シンナー、ガソリン、LPG など）を使っているところや置いてあるところでは、ヒータを絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因となります。</p> <p>段積燃焼厳禁 段積みした状態では決して燃焼させないでください。 爆発、火災、やけど等になり危険です。</p>
	<p>換気必要 使用中は1時間に1~2回必ず換気してください。換気せずに使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。</p> <p>密閉された空間での使用厳禁 換気が十分行われない場所で使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。新鮮な空気が常に供給できるように、空気取入口や排気口を必ず設けてください。</p>
	<p>改造厳禁 改造は絶対にしないでください。製品故障の原因になるばかりでなく、火災・やけど・不完全燃焼による中毒など、重大な事故の原因となります。</p>

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（警告）



警告



変質灯油、不純灯油使用厳禁

誤って変質灯油や不純灯油を使用すると異常燃焼や火災の原因となります。

スプレー缶厳禁

スプレー缶など密閉容器を暖めたり、熱の当たるところに放置しないでください。

熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発し危険です。

可燃性粉塵厳禁

可燃性粉塵（木くず、紙くず、繊維くずなど）が発生するところでは使用しないでください。ヒータに吸い込まれると、加熱され火の粉になって吹き出されるので、火災の原因となります。

水のかかるところ、湿気の多いところでの使用禁止

雨水、雪などのかかるところ及び湿気の多いところでは使用しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。故障や感電の原因になります。

空気取入口及び放熱パネルをふさがない

空気取入口や放熱パネルをふさがないでください。また、周囲のシート等が空気取入口に貼り付かないように注意してください。異常燃焼や火災の原因になります。

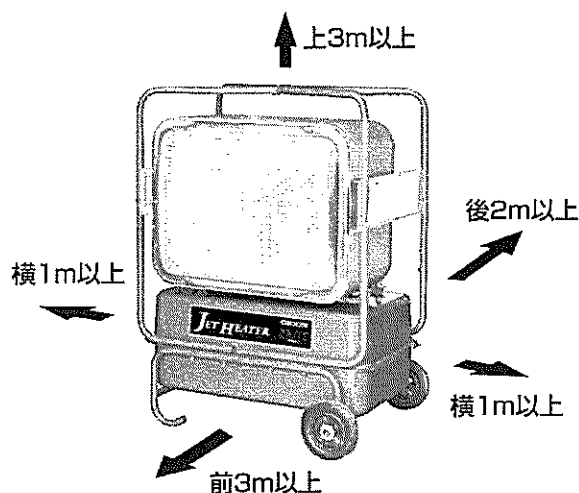
電源コードを破損させたり加工しない

重いものを載せたり、加熱したり、引っばったり、はさみ込んだり又は加工すると、電源コードが破損し、感電や火災などの原因になります。



周囲の可燃物に注意



ヒータ周囲の天井、壁面等の可燃物との距離は、下図の距離を確保してください。放射角度を調整する際には、床面の温度が高温にならないように注意してください。高温になる恐れがある場合は、収納カバー兼用ミラーシート（オプション）を使用してください。使用しないと火災の原因となります。



安全のため必ずお守りください

使用上の注意（警告）



	<p>正常燃焼の確認 使用するたびに正常に燃焼していることを確認してください。（16 ページの「点検・手入れのしかた」を参照）炎の飛び出し、におい、すすの発生など異常を確認したときは、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店へ連絡してください。異常のまま使用を継続しますと、ヒータ本体の焼損や火災の原因となります。</p>
	<p>点検、手入れ時、電源プラグを抜く 点検、手入れ時及びオプション部品の取付の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や燃焼ファンによるケガの原因となります。</p>

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）



注意



振動の激しいところ水平でないところでの使用禁止

振動がなく水平な場所で使用してください。振動が激しい場所や水平でない場所で使用すると、ヒータが移動したり転倒したりして、火災の原因となります。

通路や子供のいる場所での使用に注意

階段、避難口及び部屋の出入口などでは使用しないでください。人がぶつかり、やけどなどの事故の原因となります。また、子供のいる場所では、ガードを設置したり管理者をおくなどして、特に安全管理に注意してください。

風に注意

風の強い場所では使用しないでください。異常燃焼や火災の原因となります。

磁気や高周波に注意

磁気や高周波の強い場所では使用しないでください。予期せぬ製品の誤動作等により火災等の事故の恐れがあります。

腐食性ガスに注意

腐食性ガスの発生するところでは使用しないでください。製品の故障や漏電による、感電、火災の原因となります。

点火操作の繰返し禁止

燃料切れ以外で点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないで、お買い上げの販売店にご連絡願います。点火操作を 4 回以上繰り返して点火した時には、放熱パネルより炎や煙が出ることがあります。また、火災の原因にもなります。

電源プラグでの消火禁止

電源プラグを抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、やけどや、焼損の原因となります。

燃焼中の移動禁止

ヒータを火のついたまま移動しないでください。やけどの恐れがあります。転倒すると火災の原因になります。

灯油を入れたまま保管、廃棄しない

保管及び廃棄するときは必ず油タンクを空にしてください。油タンク内の灯油が漏れると環境汚染や火災の原因となります。また、長期間保管した灯油を使用すると不完全燃焼の原因にもなります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）



点火操作後の放熱パネル接近禁止

点火操作をした後、放熱パネルをのぞき込まないでください。
やけどの恐れがあります。

外筒上部に、物を載せたりしない

外筒や外筒脚上部に、やかん、なべなどを載せ、調理や湯沸しに使用しないでください。
火災ややけどの恐れがあります。また、水が内部に入ると感電や故障の原因になります。



やけどに注意

燃焼中や消火直後は、放熱パネル、外筒などは 100℃以上の高温になっています。
燃焼中及び消火後 30 分間は手をふれないでください。やけどの恐れがあります。



電源に注意

電源電圧は AC100V±10V の範囲内で使用してください。AC200V 電源には絶対に接続しないでください。また、タコ足配線はしないでください。故障や感電、火災の原因となります。

動物飼育施設での使用に注意

下記内容が想定されますので、特に注意して使用してください。

- ・敷きワラ、オガ粉等の可燃物が多く火災の恐れがありますので、周囲の可燃物には特に注意してください。
- ・換気が不十分になると酸欠や一酸化炭素中毒により家畜が死亡する恐れがありますので、使用中は1時間に1~2回換気をしてください。
- ・安全装置の作動などによりヒータが自動消火し家畜が凍死する場合も想定されますので、使用中は定期的に運転状態を確認してください。
- ・家畜がヒータを倒したり、壊す等して、火災の原因になったり、家畜が長時間温風にあたり低温やけどや脱水症状になる恐れがありますので、家畜がヒータに近づきすぎないように、柵などの施設を設置してください。

周囲温度に注意

周囲温度は-20℃~40℃の範囲で使用してください。40℃を超える温度で使用するとヒータが過熱され、火災の原因となります。

給油時消火

必ず消火してから給油してください。火災の原因になります。

運転スイッチの切り忘れに注意

サーモスタットを取り付けて運転すると、自動的に点火・消火を繰り返します。（サーモスタットはオプション）ヒータを使用しない時は、必ず運転スイッチを「切」にして電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因になります。

手の挟み込み注意

ヒータを荷台等へ積み降しする時は、把手を完全に下げ、補強パイプと合せて握り持ち上げてください。把手を上げて持ち上げないでください。把手と補強パイプの間に手を挟んで、ケガの原因になります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）



自動車運搬時に注意

自動車に積載して運搬するときは、灯油を抜き、転倒防止の処置を行ってください。転倒や、振動により油タンク内の灯油が漏れると火災の原因となります。

点検時保護手袋着用

ヒータの清掃や炎検出器の点検の際は、ケガの防止のため、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。

保管時の段積みは3段まで

保管時にヒータ本体を段積みする場合は、3段以下とし、必ず転倒防止の処置をしてください。ヒータの一点吊りをする際、油タンクを空にしてください。転倒し、ケガの恐れがあります。

標高の高いところでの使用禁止

標高 1000m 以下で使用してください。1000m を超える場所で使用すると、燃焼空気量不足により異常燃焼の原因となります。

電源プラグは先端のプラグを持ってを抜く

コードを持って抜くと、芯線の一部が断線して、発熱・発火などの原因になります。

消火の確認

消火をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。火がついたままだと、火災の原因になります。



使用時以外は電源プラグを抜く

使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。



アースは必ず接地

ヒータを使用するときはアースコードを必ず接地してください。（12 ページの「点火のしかた」を参照）感電の原因になります。

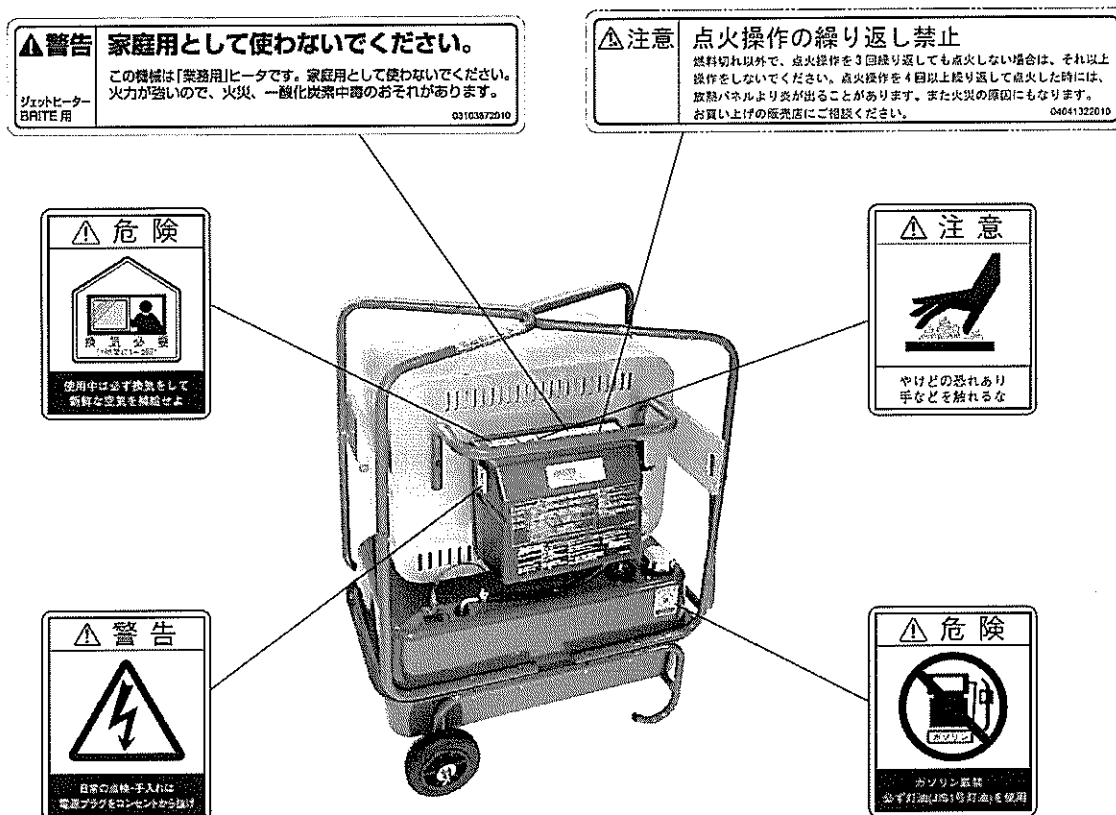
本体警告ラベル貼付位置

使用上の注意（本体警告ラベル貼付位置）

⚠ 本体警告ラベル貼付位置

次の警告ラベルは、重要警告事項の中から特に重要なものとして厳選されておりヒータ本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みください。

また、汚れ、傷などで見えにくくなった場合には、お買い上げの販売店に連絡し、新しいものに貼り替えてください。（有償扱いとなります。）

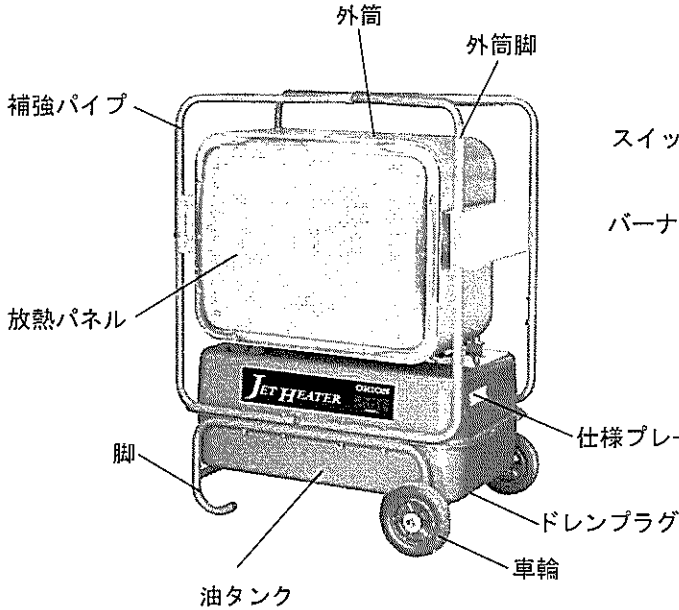


各部のなまえ

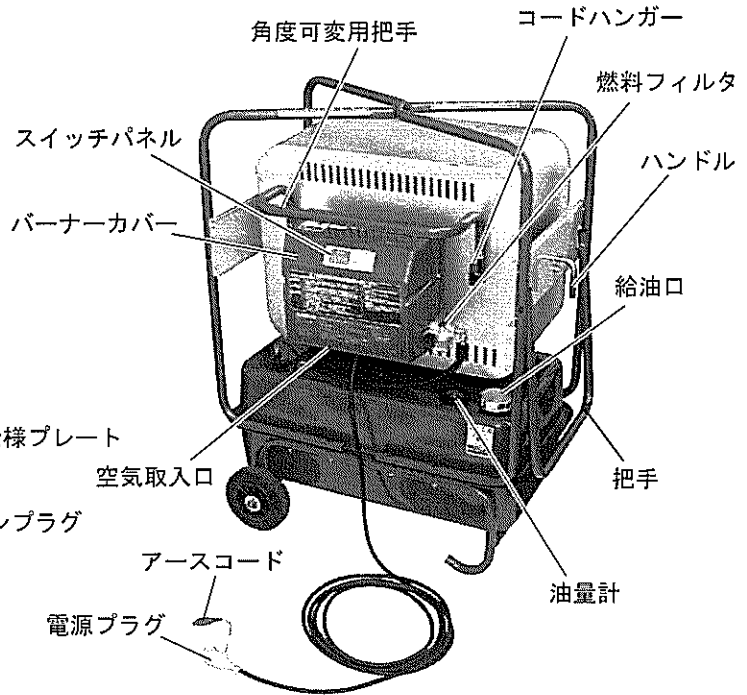
外観／スイッチパネル／バーナーカバーを開けると

■外観

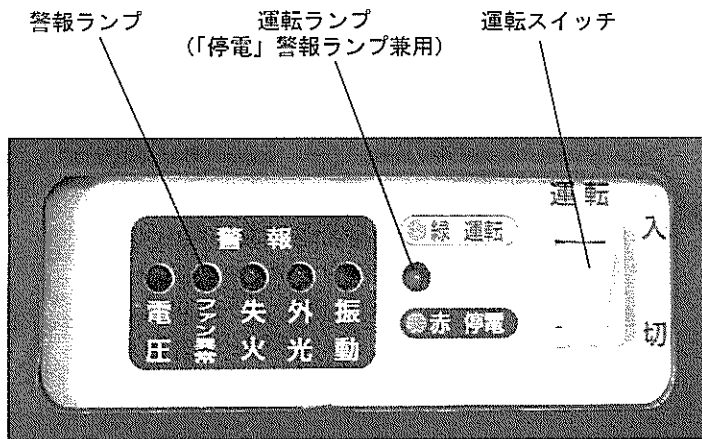
前面



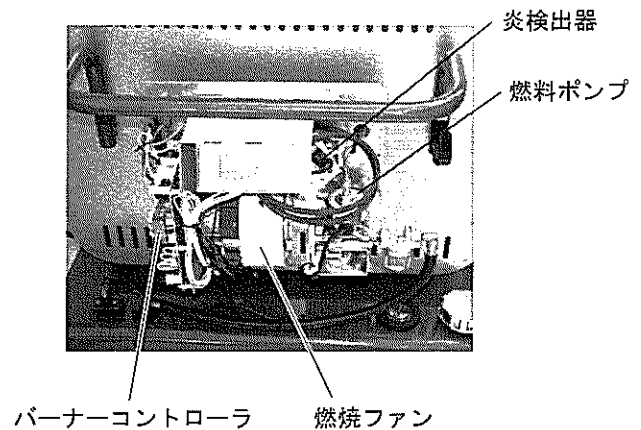
裏面



■スイッチパネル



■バーナーカバーを開けると



「外交」警報ランプ

燃焼室内に光が差し込んでいると、燃焼中と判断して点火バーナーが作動しません。太陽光などが燃焼室内に入らないように光を遮って下さい。

運転スイッチ	
運転ランプ (「停電」警報ランプ兼用)	点滅 (赤) … 停電により消火、停電復帰後も運転スイッチを「切」にするまで赤で点滅
「電圧」警報ランプ	点灯 (赤) … 低電圧：電源電圧が異常に低い 点滅 (赤) … 高電圧：電源電圧が異常に高い
「ファン異常」警報ランプ	点滅 (赤) … 燃焼ファンの故障により消火
「失火」警報ランプ	点滅 (赤) … 着火ミス、異常燃焼、油切れなどにより消火
「外光」警報ランプ	点滅 (赤) … 点火時、燃焼室内に光が差し込んでいる
「振動」警報ランプ	点滅 (赤) … 水平に置かれていない場合や、地震等により消火

使用前の準備と確認

使用する場所／燃料／点火前の準備

使用する場所

「安全のため必ずお守りください」をよくお読みになり、使用する場所には特に注意願います。

燃料

危険

- ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。灯油（JIS1号）を必ず使用してください。

警告

- 変質灯油、不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因となります。

1. 燃料は JIS1 号灯油を使用する。
2. 変質灯油や不純灯油は使用しない。

- 変質灯油とは


- ・古い灯油（昨シーズンより持ち越した灯油）
- ・日光の当たる場所で長期間保管したもの
- ・温度の高い場所で長期間保管したもの

- 不純灯油とは

- ・灯油以外の油（ガソリン、シンナー、機械油重油など）が混入したもの
- ・水やゴミが混入したもの

- 変質灯油、不純灯油が入っているとき

- ・油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油と入れ替えてください。（「油タンクの掃除」17 ページ参照）

灯油とガソリンの見分けかた	
指先につけ、息を吹きかけます。 (火の気のない所でしてください。)	
 <p>灯油</p> <p>濡れたまま。</p>	 <p>ガソリン</p> <p>すぐ乾いてしまう。</p>

点火前の準備

1. 梱包箱からヒータを取り出す。
 - ・ヒータ各部の梱包部材やチラシをすべて取り除く。
 - ・放熱パネルの変色は、工場での燃焼テストによるもので、異常ではありません。
2. 据え付ける。
 - ・水平な場所に置く。
 - ・ヒータの近くに燃えやすいものが置いてないか確認する。

使用前の準備と確認

給油のしかた／点火のしかた

給油のしかた



注意

●給油は必ず消火してから行ってください。燃焼中に給油すると火災ややけどの原因になります。

1. 給油口キャップを外す。
2. 油量計の目盛を確認しながら給油する。
 - ・給油口フィルターは外さずに給油してください。タンク内にゴミ等が入りますと送油回路の詰まりの原因になります。
 - ・いきおいよく給油すると給油口から灯油があふれることがあります。給油はゆっくりと行ってください。
 - ・油量計の目盛が「F」を超えて給油しないでください。灯油があふれます。
3. 給油が終わったら給油口キャップを確実にしめつける。

使い方

点火のしかた

点火のしかた



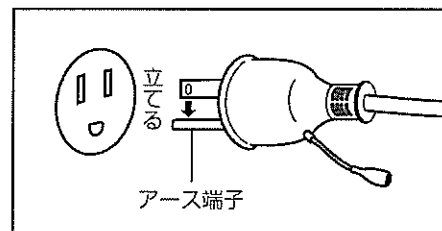
注意

- 電源は AC100V です。AC200V コンセントには絶対に差し込まないでください。故障や感電、火災の原因となります。
- アースコードは必ず接地して使用してください。感電の原因となります。

1. 電源プラグを AC100V コンセントに差し込む。
 - ・運転ランプが赤色に点滅（停電安全装置作動）した場合は、運転スイッチが「入」になっています。運転スイッチを「切」にした後、点火操作をしてください。
 - ・電圧警報ランプが点灯または点滅していないことを確認してください。

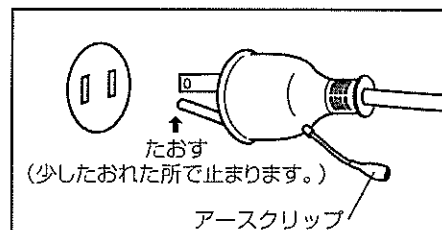
■コンセントの違いによるプラグの差し込み方

- ・コンセントがアース付の場合
アース端子をイラストの様に立てて差し込む。



- ・コンセントが 2P の場合
アース端子をイラストの様にねかせて差し込む。
(アース端子がたおれながら差し込まれます)

※プラグから出ているワニ口のアースクリップで必ず接地してください。



使い方

点火のしかた／消火のしかた

重要事項

- 電圧警報ランプが点滅（電源電圧が異常に高い）した場合は、即座に電源プラグをコンセントから抜いてください。警報が出ても、ヒータには過電圧が印加されたままになっています。

2. 運転スイッチを「入」にする。

3. 約 10 秒後に点火します。

- ・お買い上げ後初めての運転時や燃料切れした給油後の運転時は、運転スイッチ「入」後燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がし、失火警報が出ます。この場合は、運転スイッチを「切」にし、点火操作を 2～3 回繰り返すと点火します。（油タンク内の灯油が少量で、ヒータを運搬、移動した場合にも、同様な現象となる場合があります。）

「外交」警報ランプ

燃焼室内に光が差し込んでいると、燃焼中と判断して点火バーナーが作動しません。太陽光などが燃焼室内に入らないように光を遮って下さい。

- 燃料切れ以外で点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、ヒータの異常が考えられますので点火をやめ、お買い上げの販売店へ連絡してください。点火操作を 4 回以上繰り返して点火すると、放熱パネルより炎が出て火災の原因となります。

燃料は入れずに出荷をしております。燃料が染みこむまでに時間がかかります。しばらく時間を置いてから点火して下さい。点火操作を 5 回繰り返しても点火しない場合は、緊急連絡先にご連絡下さい。

重要事項

- 燃料切れによる消火時や、燃料切れした給油後の運転時には放熱パネルから炎が飛び出したり、油滴が飛び出す場合がありますので、注意してください。炎や油滴の飛び出しを防止するためには、燃料切れをおこす前に給油してください。

- 雨水等で外筒内部の断熱材が濡れると再着火を繰り返します。この場合は不完全燃焼による臭いがしますので、風通しの良い所で 10～15 分程度燃焼させ、断熱材を乾燥させてください。

上記以外で再着火を繰り返す場合は、販売店にご連絡ください。

燃料は入れずに出荷をしております。最初に点火する時は、灯油を満タンに入れてから点火して下さい。

（燃料が 20L 以上入っていると点火しない場合があります。）

消火のしかた



注意

- 電源プラグを抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、やけどや、焼損の原因となります。

- ヒータ停止直後は、放熱パネルや外筒はまだ高温状態です。手を触れるとやけどの恐れがありますので、停止後 30 分間は手を触れないでください。

1. 運転スイッチを「切」にする。

2. 約 3 分間冷却運転を行った後、自動停止します。

使い方

放射角度の調整のしかた／運搬のしかた

放射角度の調整のしかた

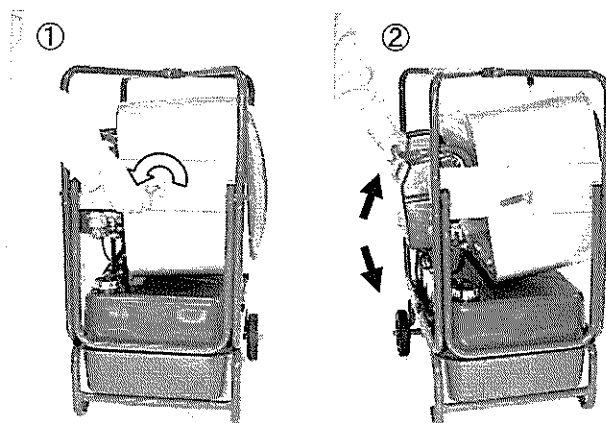
⚠ 注意

- 可燃物との距離は 3m 以上保ってください。床面、天井が高温にならないようにしてください。火災の原因になります。
- 外筒、放熱パネル、燃料フィルターを持って角度を変えないでください。やけどの恐れがあります。また、故障の原因になります。
- 放射角度調整は、ハンドルが確実に締め付けられ、外筒が動かないことを確認してください。締め付けが不十分な場合、使用時に放射角度が変わり、火災の原因になります。

1. ハンドルをゆるめる
(写真①)

2. 角度を変える
・写真②の要領で角度可変用把手を持って放射角度を調整してください。

3. ハンドルを固定する
ハンドルを締め付け固定してください。

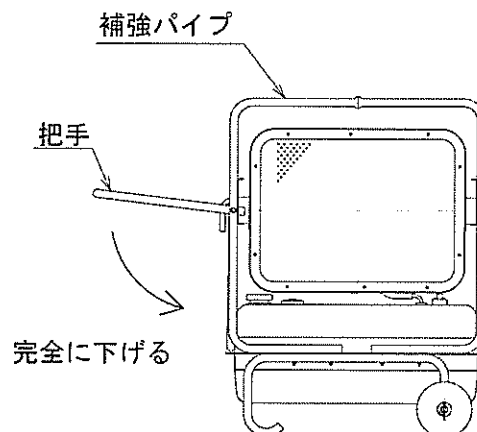


運搬のしかた

⚠ 注意

- ヒータを荷台等へ積み降しする時は、把手を完全に下げ、補強パイプと合せて握り持ち上げてください。把手を上げて持ち上げないでください。把手と補強パイプの間に手を挟んで、ケガの原因になります。

1. 図のように把手を下まで完全に下げ、補強パイプをしっかり
にぎって運搬してください。



使い方

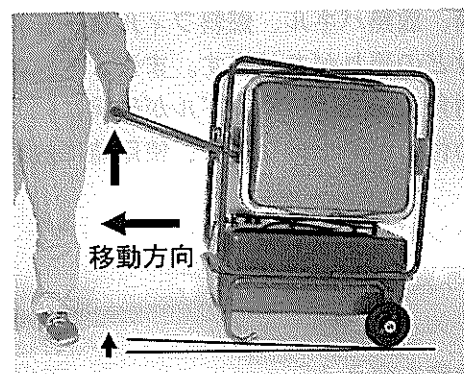
移動のしかた／延長コードを使用する場合

移動のしかた



●火のついたままヒータを移動しないでください。やけどや転倒による火災の原因になります。

1. 写真のように把手を持ち、脚をうかせ、手前に移動してください。



延長コードを使用する場合

延長コードを使用する場合は、次の表を目安にしてください。

延長コードの長さ	30m	60m	90m	120m
コードの公称断面積	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²

点検・手入れのしかた

使うたびに



- 運転状態の確認、対震自動消火装置の作動確認を除き、点検・手入れは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電によるケガの原因となります。



- ヒータ停止直後は、放熱パネルや外筒はまだ高温状態です。手を触れるとやけどの恐れがありますので、停止後 30 分間は手を触れないでください。

使うたびに



- 異常が認められた時は、ヒータの使用をやめ、お買い上げの販売店に連絡してください。異常のまま使用すると、ヒータ本体の焼損や火災などの原因になります。

1. 運転前の確認

- ・ ヒータ周囲の可燃物との距離は確保されているか。また、スプレー缶などが無いか必ず確認してください。
- ・ ヒータ本体や、油タンクに油漏れや油漏れの形跡が無いか確認してください。
- ・ 外筒に変色（焼け）がないか確認してください。変色があるとヒータ内部に異常がある恐れがあります。

2. 燃焼状態の確認



- 燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒータから 3m 以上離れて行ってください。

燃焼中に次の異常が無いか確認してください。

- ・ 臭いがする。
- ・ 放熱パネルから頻繁に炎が飛び出す。
- ・ 放熱パネルから時々すすが出る。
- ・ 放熱パネルから時々油滴が飛び出す。
- ・ 放熱パネルから油が垂れたり、床に油が垂れたしみがある。
- ・ 炎が大きくなったり、小さくなったりする。または消火・着火を繰り返す。
- ・ 異常音や異常振動がする。

重要事項

- 異常燃焼や油ダレがある場合は、電源プラグを抜かないでください。運転スイッチを切り約 3 分間の冷却運転が終わってから電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜いて消火すると、燃焼ファンによる冷却運転が出来ないためヒータ内部が高温になり、内部の垂れた灯油に引火し、本機の焼損や火災の恐れがあります。

点検・手入れのしかた

1ヶ月に1回以上／1シーズンに2～3回

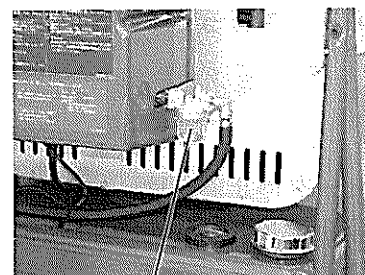
1ヶ月に1回以上

1. フィルターエレメントの点検

- ・フィルターケース内のエレメントを確認し、汚れているときは、フィルターエレメントの掃除をしてください。
- ・汚れが著しいときは、新品のフィルターエレメントと交換してください。(エレメントのご注文は、お買い上げの販売店に連絡してください)

●フィルターエレメントの掃除のしかた。

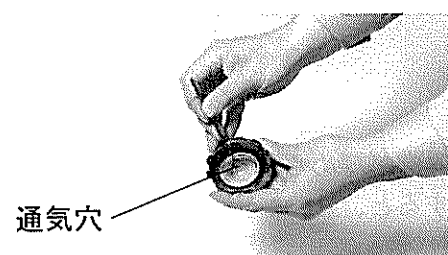
- (1) フィルターケースの固定リングをゆるめ、フィルターケースを外す。
- (2) フィルターエレメントを外し(下へ抜く)、灯油で洗う。
- (3) 元通りに組み立てる。
 - ・固定リングは手で確実に締め付けてください。



フィルターケース

2. 給油口キャップ通気穴の点検

- ・給油口キャップを外し、通気穴が詰まっていないか確認してください。
- ・詰まっているときは、針金などでゴミを取り除いてください。



通気穴

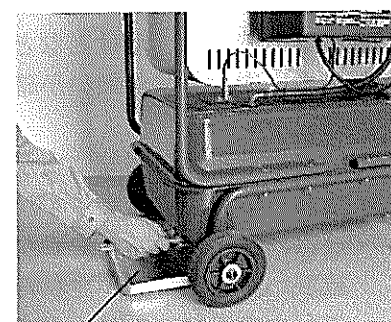
1シーズンに2～3回

1. 油タンクの掃除(水抜き)

- ・ヒータ保管時は必ず油タンクの掃除を行ってください。
- ・また、フィルターケース内に水が溜まっていたり、フィルターエレメントにゴミの付着が多い場合も同様に掃除を行ってください。

●油タンクの掃除(水抜き)のしかた

- (1) 油タンク内の灯油を、給油ポンプで抜く。
- (2) 油タンクのドレンプラグの下に油受けを置く。
- (3) ドレンプラグを外し、残った灯油をゴミや水とともに抜く。
- (4) ドレンパッキンが破損していないことを確認して、ドレンプラグと一緒に確実に締め付ける。



油受け

2. 対震自動消火装置の作動確認

- ・燃焼中にヒータをゆすって消火することを確認してください。

3. 燃焼状態の点検(炎の飛び出し、すすの発生等)

- ・粉塵等が多い使用環境によっては燃焼ファンに汚れが付着し、炎の飛び出し、すすの発生等の不完全燃焼になります。燃焼状態の確認(16ページ参照)を行い、異常の場合は販売店へ点検の依頼をしてください。

4. 炎検出器の掃除

- ・次の手順を参照し、炎検出器の掃除を行ってください。

5. 電源プラグの点検

- ・電源プラグにほこりが付着してないか点検します。
- ・電源プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除いて使用してください。

点検・手入れのしかた

1シーズンに2~3回

⚠ 警告

- 電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電の恐れがあります。

⚠ 注意

- バーナーカバーを取り付けるとき、コード等を挟み込まないようにしてください。
感電の恐れがあります。
- ケガ防止のため、炎検出器の掃除の際は、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。

●炎検出器の掃除のしかた

(1) バーナーカバーをはずす

バーナーカバーを固定している2本のネジを
ドライバにて取りはずす。



(2) 炎検出器を採光管より抜く



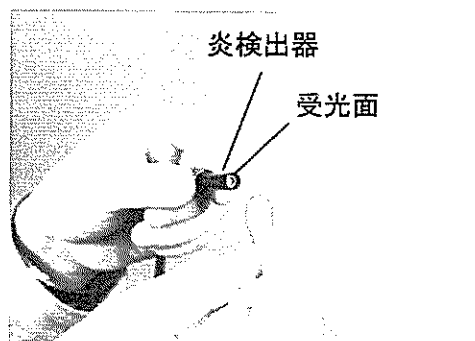
(3) 炎検出器の受光面のスス、ホコリ等を取り除く

柔らかい布又は綿棒等で受光面についているスス、
ホコリ等を取る。

※炎検出器が入っている採光管先端部の穴が、
ホコリでつまっているときは、掃除してください。

(4) 炎検出器を元通りにする

(5) バーナーカバーを取り付ける



定期点検

長時間ご使用になりますと機器の点検が必要です。点検を受けないと、予想しない事故が発生するおそれがあります。未然に事故を防止するため定期点検を依頼してください。(有料)

■実施時期

2シーズンに1回程度シーズン初めやシーズン終了時に定期点検を依頼してください。

ただし、ほこりの多いところ、湿度の高いところなどでご使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ご依頼先

お買い上げの販売店

■定期点検の内容

1. 設置状態の点検・確認
2. 安全装置及び運転状態の点検・確認
3. 環境や使用時間により劣化しやすい部品の点検・確認など

異常のとき

故障・異常早見表



警告

- 次の表に従って確認や処置を実施しても改善しない場合や、原因が不明な場合は、ヒータの使用をやめ、お買い上げの販売店に連絡してください。異常のまま使用すると、火災などの原因になります。
- 確認や処置の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電や、燃焼ファンによるケガの原因となります。

故障・異常早見表

現象	原因	処置のしかた	
安全装置が作動した	運転ランプが赤の点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 停電があった。 ・ 運転スイッチ「入」で電源プラグをコンセントに差し込んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スイッチを「切」にしリセットする。
	電圧警報ランプが点灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧が異常に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧を確認し、100±10V 以内で使用する。
	電圧警報ランプが点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧が異常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源プラグを即座に抜き、電源電圧を100±10V 以内にする。(警報が出て電源プラグを差し込んだままにしておくと、故障します。)
	ファン異常警報ランプが点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃焼ファンの故障。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用をやめ、販売店に連絡する。
	失火警報ランプが点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料切れで消火した。 ・ 炎検出器の受光面が汚れている。 ・ 燃料の不良 (変質灯油、水の混入等)。 ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 給油口キャップの通気穴の詰まり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 油量計を確認し、給油する。 ・ 炎検出器を掃除する。(P18 参照) ・ 油タンクを掃除する。(P17 参照) ・ エレメントを掃除する。(P17 参照) ・ 通気穴を掃除する。(P17 参照)
	外光警報ランプが点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放熱パネルに太陽光が差し込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒータの向きを変える。
	振動警報ランプが点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒータが傾いている。 ・ 強い地震や振動、衝撃が加わった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振動のない、水平な場所で使用する。
警報は出ないが燃焼状態が異常 (炎の連続的な飛び出し、臭いがする、煙が出たり油ダレする 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料の不良 (変質灯油、水の混入等)。 ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 燃焼ファンが汚れている。 ・ 給油口キャップの通気穴の詰まり。 	<ul style="list-style-type: none"> 失火警報ランプが点滅時の処置を参考に確認する。原因が不明の場合は、使用をやめ、販売店に連絡する。 	
運転スイッチを「入」にしても運転しない。(運転ランプも点灯しない)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過負荷保護装置 (ヒューズ) が作動。 	<ul style="list-style-type: none"> 販売店に連絡する。 	

異常のとき

安全装置一覧表

安全装置一覧表

装置のなまえ	はたらき	ランプ表示
対震自動消火装置	強い地震や衝撃を受けたときに自動消火します。	振動警報ランプ点滅
点火安全装置	点火ミスや燃料切れ、異常燃焼のときに自動消火します。	失火警報ランプ点滅
停電安全装置	停電後に復電しても、運転開始することを防止します。	運転ランプが赤の点滅
過負荷保護装置（ヒューズ）	過電流が流れた時に電気回路を遮断し、運転停止します。	運転ランプ消灯
高電圧停止装置	電源電圧が異常に高いときに運転停止し、警報を出します。	電圧警報ランプ点滅
低電圧警報装置	電源電圧が異常に低いときに警報を出します。	電圧警報ランプ点灯
ファン回転異常停止装置	燃焼ファンの回転状態が異常のときに自動消火します。	ファン異常警報ランプ点滅

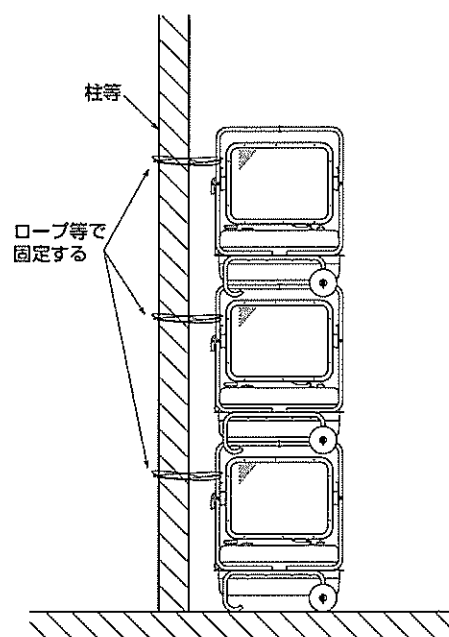
●安全装置作動時は、「故障・異常早見表」（20 ページ参照）に従って、確認及び処置をしてください。

保管のしかた

⚠ 注意

- 保管時の段積みは 3 段までとしてください。また、転倒防止の処置を必ず行ってください。転倒するとケガの原因となります。
- 灯油を入れたまま保管しないでください。油タンクの腐食による穴あきで、油タンク内の灯油が漏れて環境汚染や火災の原因となります。また、長期間灯油を保管すると変質し、それを使用すると不完全燃焼の原因にもなります。

1. 電源プラグをコンセントから抜く
2. 油タンク内の灯油を抜く
 - ・「油タンクの掃除」（17 ページ参照）に従って灯油を抜いてください。灯油を抜かないと、溜まった水により油タンクが錆びて穴あきの原因となります。
3. ヒータ本体のほこりや汚れを取り除く
4. シート等をかけて湿気の少ない屋内で保管する
 - ・雨水がかかったり、湿気の多いところには保管しないでください。
5. 保管時にヒータを段積みする場合は、3 段積み以下にし、必ず転倒防止の処置を行ってください。
ヒータ本体の保管は、右図の方法で行ってください。



消耗部品

定期交換部品／点検交換部品

定期交換部品（指定された時期に定期的に交換する部品）

部品名称	部品番号	員数／台	交換時期
フィルターエレメント	80000022560	1	最低1シーズンに1回。 点検により汚れが著しい場合は都度交換してください。 「フィルターエレメントの点検」(17ページ参照)
ノズル	04A30197010	1	最低3シーズンに1回。 燃焼中に、臭いがしたり、放熱パネルから炎の飛び出し、油滴の飛び出しなどの症状を確認した場合は都度交換してください。

※ノズルの交換は、専門技術を要しますのでお買い上げの販売店にご相談ください。

点検交換部品（点検時の消耗、劣化状態に応じて交換する部品）

項目	部品名称
使用時間により交換が必要な部品	点火棒、放熱パネル（パネル本体）、灯油ホース、燃焼ファン（ブローモータ）、給油口フィルタ、給油キャップ（オイルキャップ組立）
変質灯油、不純灯油使用により劣化しやすい部品	電磁ポンプ、

(注意)上記部品の交換は、専門技術を要しますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

廃棄について

製品を廃棄するときは、油タンク内の灯油を抜いた後、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に準拠し、必ず専門の産業廃棄物処理業者に委託して処理をしてください。

オプション部品

オプション部品についてのご相談は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

1. オプション部品リスト

	部品番号	部品名称	員数／台	仕様
1	03039388020	サーモスタット（高温用）	1	20℃～110℃
2	03039388010	サーモスタット（低温用）	1	10℃～30℃
3	03039388030	サーモスタット（低温用）	1	0℃～20℃
4	03037841010	タイマー	1	
5	03007023010	オイルレベラー	1	
6	03044312010	収納カバー兼用ミラーシート	1	床面過熱防止用 1600×950 mm
7	02035491010	ガードフェンス	1	幅 1300×高さ 900×奥行 850 mm
8	02034734010	プロテクタ	1	

必ず純正部品を使用してください。使用の際は、部品に付属の取扱説明書をよく読んで使用してください。

オプション部品

警告

- 電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電の恐れがあります。

注意

- バーナーカバーを取り付けるとき、コード等を挟み込まないようにしてください。
感電の恐れがあります。

- サーモスタット・タイマーの接続のしかた

(1) バーナーカバーをはずす

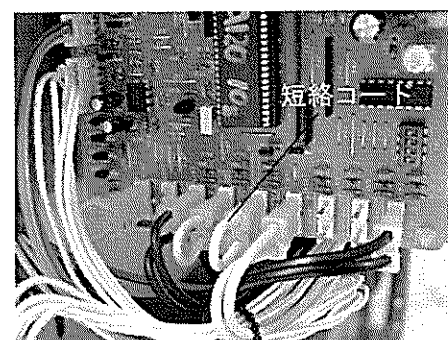
バーナーカバーを固定している2本のネジを
ドライバにて取りはずす。

ネジ（両側で2ヶ所）

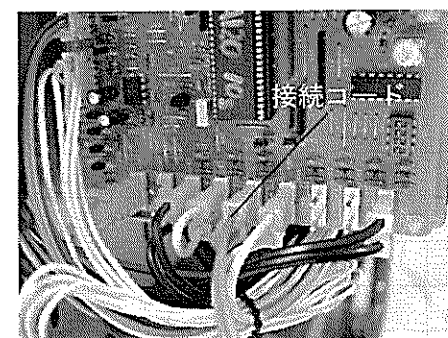


(2) 短絡コードをはずす

バーナーコントローラの“サーモスタット”端子台に
接続されている短絡コードを取りはずす。



- (3) サーモスタットまたはタイマーのコネクタを取り付ける
純正部品に付属している接続コードのコネクタをバーナー
コントローラの“サーモスタット”端子台へ差し込む。



(4) バーナーボックスカバーを取り付ける

接続コードは、電源コードと一緒にバーナーカバー下の
切り欠部より出す。

運転のしかたは純正部品に付属している取扱説明書をお読みください。

アフターサービス

■ 保証について

- ・ 巻末が保証書となっています。大切に保管してください。
- ・ 保証期間中でも消耗部品等は有償となる場合があります。保証書をよくお読みください。
- ・ 保証期間経過後は有償修理となります。修理箇所及び修理内容や経過年数によっては新規購入をお奨めする場合がありますので、販売店にご相談ください。

■ 点検・修理を依頼される前に

- ・ 「異常のとき」(20 ページ参照)に従い確認、処置をしてください。
- ・ その上で改善しない場合、またはご不明な点がある場合は、ご自身で修理なさらずに、お買い上げの販売店にご連絡願います。

■ 補修用性能部品について

- ・ 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- ・ この製品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後 6 年です。

■ アフターサービスの依頼

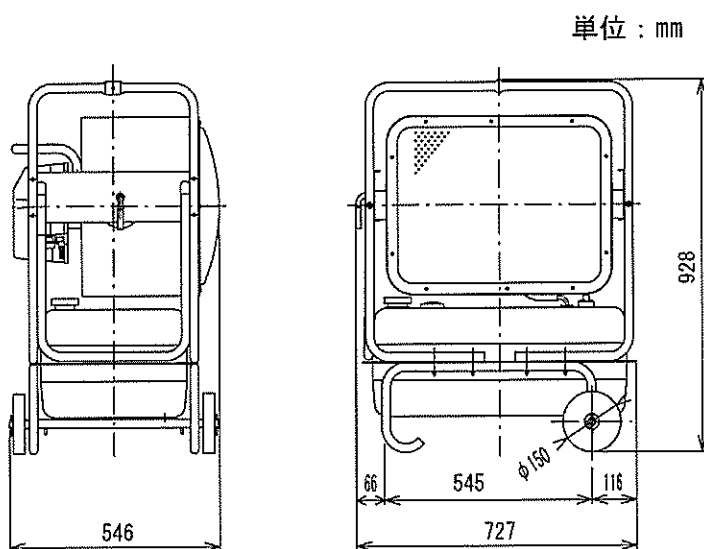
- ・ 点検、修理をお申しつけのときは、次の事項を、お買い上げの販売店にお知らせください。
①製品名 ②形式名 ③製造番号 ④現象(できるだけ詳しく) ⑤道順
- ・ 部品のお申し込みをされるときは、次の事項をお知らせください。
①製品名 ②形式名 ③部品の名称、部品番号、個数

仕様

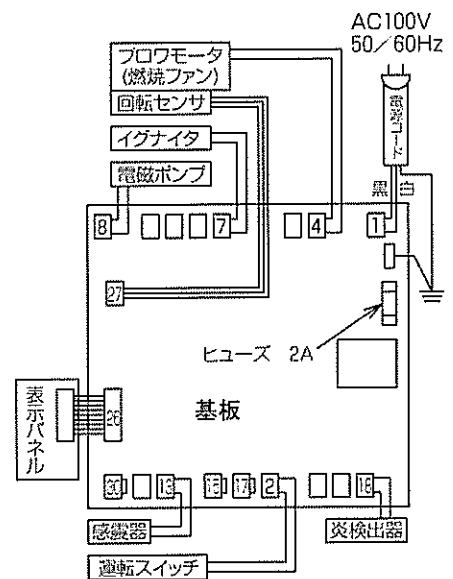
■仕様表

種類	放射式直火形
形式	HR330E-L
熱出力	35.0kW
燃料消費量	3.6L/h
油タンク容量	54L
燃焼持続時間	15時間
外形寸法	高さ 928 mm × 幅 727 mm × 奥行 546 mm
製品質量 (油タンク空時)	42kg
定格電圧及び周波数	100V 50/60Hz
定格消費電力 (50/60Hz)	点火時 80/80W 燃焼時 60/60W
運転音 (50/60Hz)	65/65dB
安全装置	対震自動消火装置 点火安全装置 停電安全装置 過負荷保護装置 高電圧停止装置 低電圧警報装置 ファン回転異常停止装置
ヒューズ	ガラス管ヒューズ (φ5.2×20、125V・2A)

■外形寸法図



■配線図



** ジェットヒーター-BRITE: 返却時梱包手順 **

①



・梱包は、ストーブが完全に冷めてから到着時の台にのせてください。

②



取扱説明書 給油ポンプ

・箱の脇に取扱説明書と給油ポンプを入れてください。

③



・到着時の箱を上から被せてください。

④

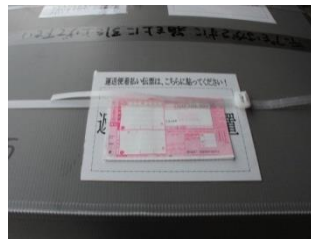
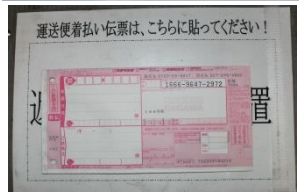


・上の写真のように下までピッタリとつけてください。

⑤



・出荷伝票(写真左上)の下のビニール封筒の中の返却用着払い伝票を貼り付け位置に貼って返してください。(写真左下)



・PPバンドで留めてください。
(PPバンドの使用方法は次頁を参考にしてください。)
*この度は、レンタルをして頂きまして、誠にありがとうございました♪♪

手動式灯油ポンプの使用方法

- ① 手動ポンプのまっすぐになっているホースを灯油に入ったポリタンクに差し込み、反対の蛇腹になったホースを移したいタンクの方に差し込みます。
- ② ポンプの頭にあるつまみを時計回りに回して閉めます。
- ③ ポンプ部分を両手で握ったり放したりしながら、灯油をポンプに通します。
- ④ 灯油の流れがある程度の勢いになりましたらポンプから手を放してください。自動的に灯油がポンプの中を流れ、移したいポリタンクに灯油が入ります。
- ⑤ 移したいポリタンクが満タンになる手前の八分目程度になりましたら、ポンプのつまみを反時計回りに回して開けて下さい。自動的に灯油の流れが止まります。

梱包時PPバンドの使用方法

①



輪をつくる。

②



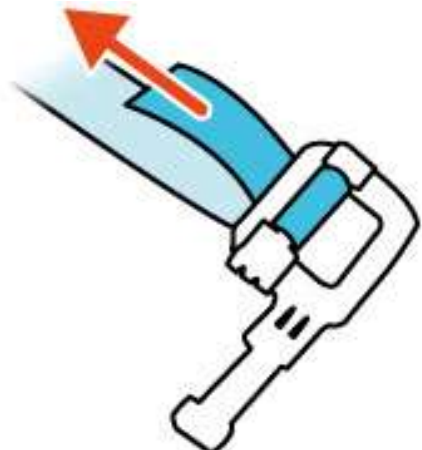
つくった輪をストッパーに通す。

③



1本の足を輪の中に折りたたむ。

④



バンドを矢印の方向に引っ張る。

⑤



荷物に回したもう片方のバンドも同様に通す。

⑥



ひもを両端に引っ張り、しっかり締める。